

II. 調査結果の集計・解析

1. 調査の実施状況

広域モニタリング地域および重点モニタリング地域は第1回及び第2回調査ともに同じ場所に設置した。

広域モニタリング地域調査、重点モニタリング地域調査は、ともに基本的には調査要綱に沿って実施された（表II-1-1～表II-1-4）が、第1回調査では、広域モニタリング地域調査の既存文献による調査は、地域によっては既存情報の不足のために不十分なところもあった。また、重点モニタリング調査においては、人為的インパクト調査（土地利用図）や動物相調査において、地域による調査要綱の解釈の違いが生じたことや、より積極的な試みが行われたこと等から、各道県での実施方法の一部に違いが生じた。

第2回調査も基本的には調査要綱に沿って実施された。それでも広域モニタリング調査の既存文献による調査は、地域によってかなり差があった。また調査地域によっては、調査要綱に示した調査項目の内容を網羅できなかった場所があつたり、作成すべき図面が不足するなどの不十分な点があった。重点モニタリング調査については、第1回調査における反省点を含めて、調査要綱を大幅に改正したため、調査項目の地域ごとの差はかなり減少した。しかし、調査地点数や調査時期など、環境モニタリング調査として基本的な条件がかなり異なった結果となった。

表Ⅱ-1-1 第1回広域モニタリング地域調査実施状況

	北海道 ウトナイ湖 (沖積低地 ～丘陵地)	埼玉県 鎌北湖 (山地～丘陵 ～台地)	静岡県 日本平 (低地 ～山地)	兵庫県 西播磨 (山地 ～丘陵地)	沖縄県 名護湾 (山地～海岸 海域)
植生調査					
現存植生図	○	○	○	○	○
相観植生図	○	○	○	○	○
動物調査					
動物分布図	○	○	×	○	○
植物相・動物相					
文献調査	○	○	△	○	△
動物の生息空間調査					
ビオトープ分布図	○	○	○	○	○
海域生物環境調査					
海域生物環境分布図	-----	-----	-----	-----	○
地形・地質調査					
土壤分布図	○	○	○	○	○
地形分類図	○	○	○	○	○
地形改変図	○		○	○	○
表層地質図	○	○	○	○	○
水理・気象調査					
水系図	○	○	○	○	○
水理地質図	×	×	○	×	○
水質データ	○(河川、湖)	○(河川、湖 、地下水)	○(河川)	○(河川)	○(海域)
流量データ		○	○(水位)	○	
気象データ	○	○	○	○	○
大気・降水に関する 化学データ	○	○	○	○	○
社会環境調査					
土地利用現況図	○	○	○	○	○
開発の歴史計画年表	○	○	○	○	○
大規模開発分布図	○	○		○	○
法制度	○	○	○	○	○
人口の推移					
分布メッシュ図	○	○	△S60年のみ	○	△S60年のみ
その他					

注：表中の凡例は以下の通りである。

○：十分なデータが得られた項目

△：一部データが得られなかった項目

×：データが得られなかつた項目

-----：調査対象とならなかつた項目

表Ⅱ-1-2 第1回重点モニタリング地域調査実施状況

	北海道 ウナギ湖	埼玉県 鎌北湖	静岡県 日本平	兵庫県 西播磨	沖縄県 名護湾
重点モニタリング地域数	3	2	3	3	2
人為インパクト調査 (土地利用図)	△	○	○	○	△
植生調査					
現存植生図	○	○	○	○	○
森林詳細調査	○	○	○	○	○
木本種 (高木、低木)	○	○	○	○	○
位置図	△	○	△	○	△
樹冠投影図	○	○	○	○	○
群落断面図	○	○	○	○	○
木本種 (実生)	○	○	○	○	○
草本種	○	○	○	○	○
草原詳細調査	○	---	---	---	---
方形区位置図	○	○	○	○	○
土壤調査					
土壤断面図	○	○	○	○	○
飽和透水係数	○	○	○	○(各層)	○
pH、置換酸度、電導度、交換性 イオン、陽イオン交換容量	○	○	○	○(各層)	○
土壤動物調査	92:○	91冬:○	91冬:○	91冬:○	91冬:○
地形調査					
微地形分類図	○	○	○	○	○
動物相調査	○	△	○	○	○
鳥類調査					
鳥類群集の種構成に 関する調査	91冬:○ 92:○	91冬:○ 92:○	91冬:○ 92:○	91冬:○ 92:○	91冬:○ 92:○
鳥類調査区画分け図	○	○	○	○	○
巣箱によるシジュウカラ調査	91冬:○ 92:○	91冬:○ 92:○	91冬:○ 92:	91冬:○ 92:○	91冬:○ 92:○
哺乳類調査 (フィールドサイン調査)	91冬:○	---	---	---	---
海域生物調査	---	---	---	---	91冬:○ 92:○

注：表中の凡例は以下の通りである。

○：十分なデータが得られた項目

△：一部データが得られなかった項目

×：データが得られなかった項目

----：調査対象とならなかった項目

表Ⅱ-1-3 第2回広域モニタリング調査実施状況

	北海道 ウトナイ湖 (沖積低地 ～丘陵地)	埼玉県 鎌北湖 (山地～丘陵 ～台地)	静岡県 日本平 (低地～ 山地)	兵庫県 西播磨 (山地 ～丘陵地)	沖縄県 名護湾 (山地～海岸 海域)
植生調査					
広域植生図	○	○	○	○	○
動物調査					
猛禽類調査	○	○	×	○	○
大型哺乳類調査	○	○	○	○	○
植物相・動物相					
文献調査	○	○	△	○	○
土地利用等					
土地利用現況図	○	○	○	×	○
土地利用の状況	×	○	○	×	○
開発の歴史	×	○	×	×	○
大規模開発分布図	○	○	×	×	○
人口					
人口分布図	○	○	△	○	○
法制度指定状況					
都市計画法	○	○	○	○	○
騒音環境基準	×	○	×	○	○
水域環境基準	×	○	×	×	○
震動環境基準	×	×	×	○	○
悪臭環境基準	×	×	×	○	○
自然公園法	×	○	○	○	○
文化財保護法	×	○	○	○	×
鳥獣保護法	○	○	○	○	○
砂防指定地	×	○	○	○	○
保安林	○	○	○	○	○
自然環境保全法	○	×	×	×	×
ラムサール条約	○	—	—	—	—
海岸法	—	—	×	×	○

注：表中の凡例は以下の通りである。

○：十分なデータが得られた項目

△：一部データが得られなかった項目

×：データが得られなかつた項目

———：調査対象とならなかつた項目

表Ⅱ-1-4 第2回重点モニタリング調査実施状況

	北海道 ウトナイ湖	埼玉県 鎌北湖	静岡県 日本平	兵庫県 西播磨	沖縄県 名護湾
植生調査					
詳細調査	△	△	△	○	○
土壤調査					
調査位置図	○	○	○	○	○
土壤断面図	○	○	○	○	○
飽和透水計数	○	○	○	○	○
pH	○	○	○	○	○
置換酸度	○	○	○	○	○
土壤動物調査					
調査地点位置図	○	○	○	○	○
現地調査票	○	○	○	○	○
鳥類調査					
区画分け図	○	○	○	×	○
ラインセンサス	×	○	○	○	○
昆虫類調査					
調査地点位置図	△	○	△	△	○
調査表	○	○	○	○	○
人為的インパクト					
景観構成要素	×	○	○	○	○
生物生息分布	×	○	○	×	○
海洋生物調査					
地形調査	—	—	—	—	○
サンゴライン調査	—	—	—	—	○
サンゴ方形区調査	—	—	—	—	○
底生生物ライン調査	—	—	—	—	○
底生生物方形区調査	—	—	—	—	○

注：表中の凡例は以下の通りである。

○：十分なデータが得られた項目
×：データが得られなかった項目△：一部データが得られなかった項目
―――：調査対象とならなかった項目

2. 解析の方法

本調査の本来の目的は、モニタリング調査であることから、同一地域が時間的に変化していく様を把握することが目的である。ただし、第1回調査と第2回調査では、調査地域は同じであるが、調査項目、手法などが異なるため、現段階での比較は困難である。そこでまず、第2回調査の結果をとりまとめ、比較できる項目については、第1回調査結果との比較を試みた。次に調査結果の比較を行う際の問題点と、今後モニタリングを続けていくにあたっての問題点についてとりまとめ、問題の解決法について検討した。